



はな 花は、どうしていいにおいがするの

よる さ はな つよ 夜咲く花は、においが強い

はな はな しょくぶつ が、しそん のこ たね つく たいせつ たね
花は、植物が、子孫を残すための種を作るのに、大切なものです。種ができるためには、
かふん はな むし よ よ
花粉を、めしべに運んでくれる、虫を呼び寄せなければなりません。そのため、花は目立つ
いろ だ ようい
色をし、いいかおりを出し、あまいみつを用意しています。

よる さ はな つよ
夜に咲くオオマツヨイグサ、カラスウリ、スイカズラ、サボテンの花などは、みな、強い
だ はな いろ よる めだ しろ きいろ おお
よいかおりを出しています。花の色も、夜目立ちやすい、白や黄色のものが多いいえます。
いろ かたち み よる はな ちゅう よ
色や形がよく見えない夜は、花は、において、ガなどのこん虫を、呼び寄せるのです。

はな かふん す はな からだ はな
ミツバチなどは、花のみつや花粉を巣に運んでくるとき、体に花のにおいがついてきま
めじるし おな しゅるい はな み かよ かふん
す。ほかのミツバチは、そのにおいを目印に、同じ種類の花を見つけて、通います。花粉は、
かなら おな しゅるい はな はな
必ず、同じ種類の花に運ばれますから、花にとってつごうがいいわけです。

はな むし あつ だ 花は、虫が集まるにおいを出している

かふん はな はな にく だ
ハエが花粉を運ぶ花は、肉などがくさったときのような、いやなにおいを出しています。
だいす はな あつ
でも、ハエが大好きなにおいで、ハエを集めるには、つごうがよいのです。マムシグサ、ウ
せかい いちおお はな ゆうめい あつ
ラシマソウ、テンナンショウなどや、世界一大きい花で有名なラフレシアなどが、ハエを集
だ はな
める、においを出している花です。

はな じぶん かふん はな むし あつ
このように、花は自分の花粉を運んでくれるのにつごうのよい虫を集めるために、かおり
だ にんげん おお
を出し、そのかおりが、人間にとっても、よいかおりのものが多かったのだといえます。

かいいりょう かせ えんげいしゅ はな おお
改良を重ねられた園芸種の花は、かおりがなくなっているものが多いものです。でも、
かいいりょうまえ やせい はな
改良前の野生の花は、ほとんどどれも、かおりをもっています。(監修・矢野 亮)

